

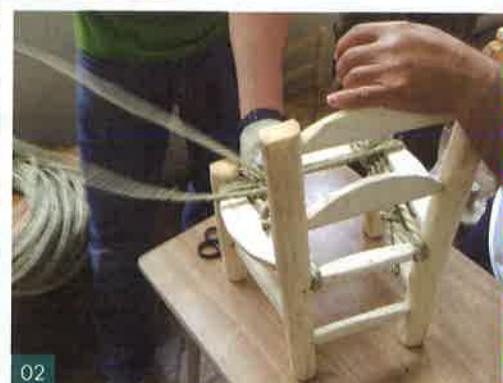
シラカバは 80 年
トドマツは 120 年
カラムツは 300 年
イチイは 2,000 年
屋久杉は 3,000 年
木に寿命はあつてないようなものだとも

法隆寺は 1,300 年
その心柱のヒノキは、樹齢 2,000 年とも

木は、人のかかわりにより、そこに文化をつくり
人は、木との関わりにより、心に森をつくる

その森は、心の記憶とともに引き継がれ
何年の森になるでしょうか

木育マイスター全道で活動中 01



▲全国木育ミーティング inほべつ チラシ

- 01 主催者木育ファミリーの活動発表
- 02 削り馬で作る「ゴッホの子ども椅子」は、上級コース
- 03 アイヌの神事で使う「イナウ作り」には目がくぎづけです
- 04 学校周辺の木の枝でメロンフォークづくりではいろんな趣向が
- 05 ボウリングの玉もグリーンウッドワークで作りました！

- 名称：第3回全国木育ミーティングinほべつ
- 日時：平成25年8月3日（土）13:00～20:00
- 場所：むかわ町穂別 旧和泉小学校
- 主催：木育ファミリー
- 後援：北海道

連日の雨も止み好天に恵まれた平成25年8月3日、平成20年3月の札幌滝野青少年山の家、平成21年1月の岐阜県立森林文化アカデミーに続き3回目の開催となる、「全国木育ミーティング（主催…

全国木育ミーティング（むかわ町穂別）

木育ファミリー」が、むかわ町穂別「むかわ木育の学校」（旧和泉小学校）で開催されました。

遠くは、沖縄、岐阜、名古屋から、また地元むかわ町長はじめ多くの地元のみなさんや道内各地から合わせて約50人の参加となりました。

ミーティングは、全員の自己紹介からはじまり、「木育活動NOW」では、沖縄からの参加者をトップに、岐阜、北海道、木育ファミリー、むかわ町、NPO法人ねおす、赤平市の順に木育活動を発表、全国各地の木育情報を交換できました。

3時のおやつには、「グリーンウッドでメロンフォークを作ろう！」と題して、学校裏から採った各種の枝をナイフで削って思い思いのフォークを作り、ほべつメロンの試食でリフレッシュ。特別イベントでは、地元アイヌ文化協会の方から「アイヌ舞踊とイナウ作り」を披露していただき、地元こだわり交流会の夜は更けていったのでした。

翌日は、生木を人力で削ってモノづくりをする「北のグリーンウッドワーク体験会」です。

削り馬で木の家や花と樹、ゴッホの子ども椅子、足踏みろくろで指輪とボウリングなどなど、各コーナーにわかれて作品づくり。締めくくりは、「むかわ木育の学校」の看板を設置して、名残惜しくも木育三昧の2日間が終了しました。



木育フェスタ (道南)

3年目を迎える道南の木育フェスタ。木育マイスターによる木育フェスタは、ここ大沼流山温泉からはじまりました。

3名の木育マイスターと地域のボランティアの協力による開催から、3度目となる今年は、参加する木育マイスターも13名となり、「木育マイスター道南支部」もフェスタ開催の日に合わせて発足しました。

当日は、ボランティアも含めると60名あまりのスタッフが協力、参加者は500名を超えました。昨年からは4割増しの来場者となり、年々賑わいが増えています。

「一日まるごと木と遊ぼう!」というだけあって、木育プログラムも盛りだくさん!

「つくる」では、「道南杉の子どものイスづくり」、「カスターネットづくり」、楽器の「カスターづくり」と「カホンづくり」、「ギーホルダーづくり」、「木のシールづ

くり」など、いろいろな木にふれてものづくり。

体験では、ハラハラドキドキ「パチパチアイス棒体験」、「薪ストーブでおやつづくり」など、ビックリや美味しい仕掛けもたっぷり。

イギリスのホースロギング協会前会長のダグ・ジョイナーさんによる「ダグさんのホースロギング(馬搬)実演」や生木を削って、人力だけでものづくりをする、「ブドランさんのグリーンウッドワーク入門講座」など、外国からのスペシャリストも登場。

ほかに「森のようちえん」や「子ども木こり隊」木のおもちや会場「森のプレーパーク」昔の林業体験など、木育フェスタならではの、木や森林を体感できるプログラムがたくさんありました。

きっと、来場者も、「一日まるごと木と遊ぼう!」を満喫したのではないでしょう。



- 01 森のようちえん
- 02 開会式はログカット
- 03 馬が丸太を運ぶホースロギング実演
- 04 大沼マルシェ
- 05 アイスの棒が…

木育フェスタ▶
チラシ



◀木育マイスター
道南支部創立

- 名称：第3回木育フェスタ
- 日時：平成25年10月6日(日) 10:00~15:00
- 場所：大沼ふるさとの森自然学校
- 主催：NPO法人大沼・駒ヶ岳ふるさとづくりセンター
- 共催：木育マイスター道南支部





02

- 01 森の小枝を削って森の妖精キトづくり
- 02 もりさんぽプログラムの前後に血圧測定して効果を体験
- 03 紙やすりをかけて端材を整えたらつみ木のできあがり
- 04 つみ木など自由に遊べる木のおもちゃ広場

- 名称：木育フェスタinキトウシ森林公園
- 日時：平成25年10月20日（日）
10:00～15:00
- 場所：キトウシ森林公園家族旅行村（東川町）
- 主催：木育フェスタinキトウシ森林公園実行委員会・NPO法人ねおす大雪自然学校



01

木育フェスタ（道北）

10月20日（日）「第2回木育フェスタ inキトウシ森林公園」は、上川郡東川町で開催されました。

道北地域にとどまらず全道各地から集まった木育マイスター9名が中心となり、東川町近郊で活動するクラフト作家や幼稚園運営者など、「木」や「森」でつながるスタッフが企画・運営し、子どもから大人まで誰もが楽しめる多様な「木育」体験プログラムが繰り広げられました。

木のおもちゃコーナー、森のアロマ体験では、トドマツ精油を使ったハンドマッサージで癒やされたり、もりさんぽプログラムの前後に血圧測定して効果を体験したり、体験版もりのようちえんでは落ち葉あそびで大賑わい。

つみ木づくり、森の妖精キトづくりなど、木エプログラムも充実しています。その他、森のビンゴ、ドラムサークルなど、さまざまな「木育」体験プログラムを通して、子どもからおとなまで誰もが「木」や「森」とふれあいました。

森の散策やクラフトなど多様なプログラムを通して「木の一生」にふれる体験を共有することができたのではないのでしょうか。



▲木育フェスタ
inキトウシ森林公園
チラシ



04



03



なんの葉っぱ？伝え方も身をもって学びます



雨にも負けず、北海道の木についてお勉強



木育の玉手箱を使って五感をととして木とふれあいます

木育の達人達

木育マスター育成研修

北海道では平成22年度から、木育の理念を十分に理解し、木育活動の企画立案やコーディネートができ、指導的な役割を果たす人材を育成するため研修を行っています。

育成研修は、室内講義及び実習を前期・後期2日間ずつ計4日間行うとともに、室内講義及び実習で修得した内容を実践するためのOJT研修を実施します。この育成研修

の全課程を修了した方を、北海道知事が「木育マスター」として認定しています。

認定者数

● H22：38名 ● H24：39名
● H23：37名 ● H25：19名 合計 133名

木育マスター全道ミーティング

木育マスター育成研修がはじまって3度目の春(?)はじめての「木育マスター全道ミーティング」が開催されました。場所は、札幌市南区の札幌市青少年の家(滝野野すずらん公園)はからずも第1回全国木育ミーティングと同じ場所です!

当日は、第1期から3期生まで30名が集まり、全道各地の銘菓とともに各地の木育ばなしが持ち寄られ楽しく交流しました。

煙山講師のあいさつからはじまって、アイスブレイク*1

で仲良くなった後は、4地域に分かれて「木育フェスタ」の企画づくりです。

翌日は、実行委員が趣向を凝らした「木育オリエンタリング」で森歩きを楽しみ、生木を人力で削る木工「グリーンウッドワーク体験」では、みなさん思い思いのものづくりを楽しんで2日間の日程を終了しました。

広い北海道、なかなか全員が集まることは難しいけれど、またみんなで集まりたいねと言いながら、それぞれ帰途につきました。

*1：初対面の人同士が出会う時、その緊張をときほぐすための手法。

研修のスタート時などにおいて、自己紹介やちょっとしたゲーム・クイズなどを行ったりする。



煙山講師のあいさつで開会



木育マスター西埜氏の木育体かん(幹)体操?



足踏みろくろに挑戦



特集2

地域材の新たな利用方法 02

- 01 実証試験施工状況の全景
- 02 実証試験施工状況の説明
- 03 道産トドマツ2×4のJAS製材
- 04 開店前日のターンキー（店舗の引き渡し）
- 05 メタルプレートコネクタによる2×4材の接合
- 06 トラス施工状況
- 07 道産材を使ったことを示すシール（右）



03



02

北海道は森林面積・蓄積ともに充実している地域で、その自給率は60%程度と推計され、全国平均と比べてかなり高めです。しかしながら、道産材の利用はパルプ・チップ、梱包用材が中心となっており、付加価値の高い建設用材としての道産材自給率は20%程度と推計されています。

森林の維持管理に必要な資金を山に還元するなど、持続可能な林業経営をしていくためには、より付加価値の持った商品を開発し材価に反映していくしくみが必要です。ここでは、それに向けたさまざまな取り組みを紹介します。



道産トドマツを利用したセブン-イレブン店舗の実証施工

セブン&アイグループでは2008年6月、環境問題を経営の最重要課題と位置づけ、「環境宣言」、「地球温暖化防止に関する基本方針」を制定しています。その一環としてセブンイレブン店舗の木造建築の取り組みを進めています。

木造は鉄骨造と比較して環境面の負荷が小さいことや、軽量となり基礎部分の軽減が可能であるなど技術的な優位性もありましたが、大きな空間を必要とする店舗構造上、開発には2年を要し（株）イワクラ・イワクラホーム（株）との共同開発）、第1号店は2010年2月に竣工しました。

以来取り組みを進め、2013年8月8日開店の美咲大通南店は、ちょうど全国100店舗目。この店舗では、これまでの輸入木材（SPE）から、道産材による再設計・パネル化を行い実証試験として施工しました。その結果、木材は

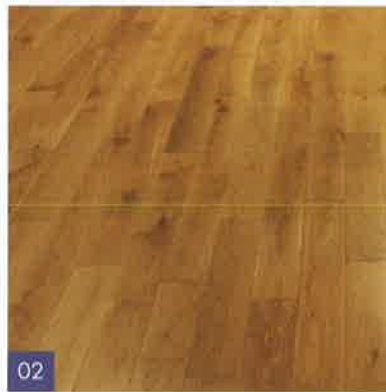
27.98㎡使用し、そのうち道産トドマツ材に置き換えた部分は、屋根トラスと壁材のスタッド部分の18.21㎡で、65%が道産材となりました。その道産材は、新得町の関木材工業（株）が製造する道産トドマツ2×4及び2×6材を使用しています。残りの寸法が3、660mm以上になる箇所については輸入木材を使用しています。

また、店内の内装にも極力地域材を使用し、フロントサッシ内側に立つ単独柱材にトドマツ集成材、室内店名ロゴにトドマツ集成材使用しています。

※店舗設計等の詳細は「道産木材」北海道の木を活かした建物と空間2013」（北海道林業・木材産業対策協議会）をご参照下さい。

※今回の取り組みは、2008年に締結した、北海道とセブンイレブン・ジャパンの包括連携協定に基づき、道産品の販路拡大の連携事項に沿って実施するものです。加えて、木造店舗として全国100店舗目となることから、新たに北海道林業・木材産業対策協議会との協働事業として実施。道産材の普及、新規用途開発の為の実証実験を合わせて行っています。

とりあえずではなく、つくってみました



01 シラカバを使った吸音・遮音パネル 滝澤ベニヤ株式会社 / 02 シラカバを使った圧縮フローリング 松原産業株式会社 / 03 カラマツを使った木製防護柵 林産試験場 / 04 トドマツ 2 × 4 材の一部を使用したトラス 北海道林業・木材産業対策協議会 / 05 トドマツを使った型枠合板 北海道 / 06 シラカバを使ったスタッキングチェア 当麻町 / 07 トドマツを使った店舗什器 (株) 北海道ポットラック / 08 脱臭・調湿型棚板 (株) Zen / 09 カラマツを使ったネームプレート 林産試験場



トドマツ型枠合板試験施工中



トドマツ2×4材トラスの実証試験施工状況見学会



函館空港における木質化デザイン調査、製品開発の検討

新製品をつくること

北海道は農産物や漁業資源の原料供給地としての能力は高いけれど、その付加価値化は常に課題。林業も然り。でも「梱包材で食っていけるのに、何で新たなものをつくらなきゃならないの?」、「で、ロットは?」と…確かにそれも大切ですが…。

全く存在しない分野を! 見逃しているからに違いない! と思ったら…そもそも市場性が無い。既存市場の置き換えで勝負!…木材だと高すぎて採算が合わない。なら、同一市場でも高く売るために北海道産という付加価値で勝負!…でもそれは本当に付加価値になっている?

服飾のブランド品が高くて売れるのは高品質少量生産、そしてなにより嗜好品だから。ある程度の生産量を持つ農産物は、ブランド化しても高く売れるわけでは無いのが現実。この分野で成果を出しているのは、「第三者認証や品質の安全・安心は当然で、同じ価格でどちらを選んでもらうか」で戦える人たち。利益は集約化による経費節減、そして安定生産という信用で創出する。

付加価値とは、売り手が「高く売るための手段」ではなく、消費者が選ぶ基準の一つ「心理価値」に過ぎないように思えます。まずは、セグメントテーションとター

ゲティングによる市場規模の設定、割り出した顧客集団に「付加価値」を感じてもらえるような新製品のポジションを設定。これをしないと「付加価値を付けて高く売る」の論理に戻ってしまいます。そして、思いを込めて作った新商品が思うように売れないと「外国産と比べて北海道産は高い、品質もかなわない。絶対にこれは是正できない。だから建築基準を下げて!」とか「補助金で差額助成できない?」…頑張っている方を見つけた後にこれを聞くと、本当に凹んでしまう。

話を戻す。木製遊具や高級家具など人の嗜好が強く購買意識に現れるものと異なり、一般的な木材の工業製品は、やはり品質を確保した上で価格も追求するしか無い。その上で「道産材を使う意味をターゲットに伝える手段を持って「心理価値」として響かせる、具体的には「北海道産を使うことで、貴方が求める価値を実現できます」を個別に訴求していくこと。

これらの新たな製品から、一つでも多くの「心理価値」が生まれるよう願っています。

(林業木材課 佐藤 圭)

木質
バイオマス

体感!「木質ペレット」のやさしいぬくもり 03

北海道木質 ペレット推進 協議会の取組

木質ペレットとは、林地末利用材*1、製材工場残材*2などをおが粉状に粉砕し、粒状に固めた固形燃料です。

北海道木質ペレット推進協議会は、地球温暖化防止や森林資源の有効利用に資するため、重油や灯油などの化石燃料から、木材の余りモノを有効活用し、再生が可能な自然エネルギー・木質ペレットへの転換を推進しています。

その取組として、ペレットストーブを中心とした各種展示会やセミナーを開催し、広く一般の方々へ木質ペレットを普及する活動を行っています。

- *1: 山で立木を伐採した際の地際～根元部分を伐り落としたもの(追い上げ材)や、丸太としては曲がっていて製品に適さない部分(中抜き材)、枝・葉、樹木先端の細い部分(梢端)などのこと
- *2: 丸太などから板などを伐り出す際にカットされた余りもの(端材)や樹皮(パーク)などのこと

追い上げ材・中抜き材、枝葉イメージ



樹皮(パーク)イメージ

端材イメージ



「じっくり感じてみる」

道内各地の喫茶店やレストランなどで、多数の方が利用することが見込まれる施設に実際にペレットストーブを設置し、モニター利用をしていただく「ショールーム」形式の展示を行っています。

この展示を通じて、施設側には「燃料としての取り回しや施設内の暖かさなどの使用感」などを実感していただき、利用者の方には施設を利用しながらゆっくりと「見た目・暖かさ・炎が見えることによる癒し効果」などを実感していただくことで、施設でペレットストーブを目にした方々から、周囲の方へとその良さが伝わるのが狙いです。



02

02 CAFE+ZAKKA 森音 (美幌町)



01

01 地域食堂きずな (石狩市)

施設内容

- 地域食堂 きずな【石狩市花川南4条4丁目66 / TEL0133-77-6393】
- CAFE+ZAKKA 森音【網走郡美幌町大通北3丁目9-1 / TEL0152-72-2177】



- 03 木育ひろばinマルヤマクラスでコラボ
- 04 ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo
- 05 環境広場さっぽろ2013
- 06 道民森づくりネットワークの集い (道庁赤れんが庁舎前)
- 07 「ひだか特産市」きりんさん展示



「見て、触れてみる」
 北海道が主催する森林づくりに関するイベントや木育イベント、その他の環境関連のイベントなどと連携して、道内各地でペレットストーブの燃焼展示会を開催し、地域の方々を対象として実際に火が見える様子や暖かさを体感していただくほか、それに合わせてセミナーを行い、「地材地消」という資源の地域内循環の考え方などを通じて、木質ペレットの普及推進に関する情報提供を行っています。

こうした取組により、最近では、灯油価格の高騰の影響もあり、価格変動の少ない木質ペレットへの切り替え事例や、マンションの暖房としてペレットストーブを設置される事例も増えてきています。



お客様への丁寧な説明



ペレット燃料、PR用ブース

札幌市と連携する形で、市内ホームセンターにおいてペレットストーブ燃焼展示会を行いました。

9月の暖房器具商戦の真っ只中でのイベントだったこともあり、期間中は1,000名以上のご来場および約200名の方からアンケートをいただくことが出来ました。

中にはこの展示会を目的に足を運んでくださった方もおり、灯油価格の上昇と相まって木質ペレットの認知度も上がってきていることが伺えました。



ホームセンターでの燃焼展示会



童話村たきのうえホテル浜谷(滝上町)



洋食コノヨシ(札幌市)

おしゃれな喫茶店やホテルのレストラン、地域密着型の食堂など、たくさんのお客様がお食事や休憩の際にゆっくりと過ごすことの出来る空間で、時間をかけて木質ペレットのぬくもりを楽しんでいただく上質な時間…

店内でペレットストーブを実際に燃焼させ、暖房としてモニター利用していただいています。

施設を利用したお客様がペレットストーブの魅力の虜になってご家族やご友人にその良さを広めていただくきっかけになることを目指しています。

施設内容

- カフェ タンネ【室蘭市高砂町1丁目44-13 / TEL0143-45-1445】
- 童話村たきのうえホテル浜谷【紋別郡滝上町元町 / TEL0158-29-3399】
- 洋食 コノヨシ【札幌市北区北18条西4丁目2.33 / TEL011-214-1383】

こんなところにペレットストーブ (ショールーム事例)



カフェ タンネ(室蘭市)



02



01

01 中央エネルギーセンター外観
02 林地未利用材等を燃料とするバイオマスボイラー

施設内容

- 木質バイオマスボイラー（RDFボイラーを改造）
- 発生熱量：最大113GJ/h
- 燃料消費量：5t/h
- 年間木質バイオマス使用量：約20,000t（H24実績）
- 熱供給エリア：札幌市都心部 約106ha

木質バイオマスボイラー による地域熱供給 （（株）北海道熱供給公社：札幌市）

人口190万人、北海道最大の都市である札幌市では、都心部におけるエネルギー消費量も非常に大きくなります。市都心部のビルが個別に石炭で暖房・給湯を行っていた昭和40年代には、ばいじんによる大気汚染が大きな問題となっており、その対策として、札幌冬季オリンピックを契機に昭和46年より（株）北海道熱供給公社による地域熱供給が開始されました。

埋設した熱供給導管へ高温水を密閉循環させてオフィスビルなどに熱供給を行うもので、当初は道内産石炭、その後はゴミ固化燃料（RDF）を使用していました。地球温暖化防止の機運が高まる中、既存設備を活用した木質バイオマス燃料の導入を決めました。

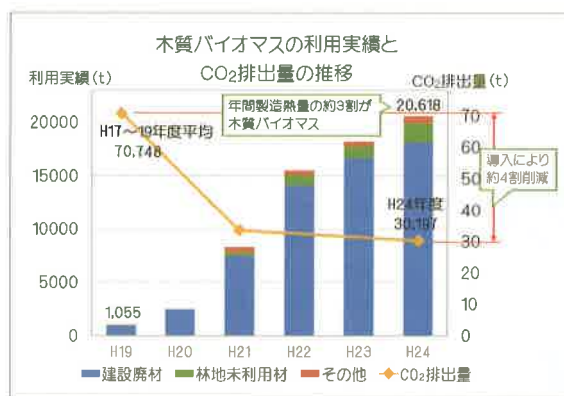
平成19年より実証試験を行い、平成20年に石炭ボイラーを廃止、翌21年には木質バイオマス燃料による熱供給をスタートしています。

現在、木質バイオマス燃料は、建築廃材系と林地未利用材をあわせて、同社中央エネルギーセンター製造熱量の約3割を占める約20,000t／年を使用しており、CO₂排出量は導入前と比較して約4割と大幅な削減を実現しました。また、燃焼灰は建設資材として全量を再資源化しています。

課題としては、原料の含水率変動による品質のバラツキ、天候等による燃料輸送への影響など、品質確保・安定供給体制の確立が挙げられます。今後は、課題を解決して一層の林地未利用材の利用を進めるため、近隣での中間集積基地の整備を検討しているところです。



札幌都心の木質バイオマスによる供給エリア(中央EC供給エリア)



木質バイオマスの利用実績とCO₂排出量の推移

北海道の木のマテリアル利用*1の取組

*1：バイオマスを原材料として使用すること
畜舎敷料や堆肥、抽出成分の利用などさまざまな利用方法がある

道産トドマツの枝葉がすごい

クリスマスツリーなどで知られるモミの木。北海道では、戦後植林されたモミ科のトドマツをはじめとした針葉樹が利用期を迎えています。その北海道のトドマツに注目したのが、CMでもおなじみ「消臭力」などを販売するエステー株式会社。

これまで使われずに林野に放置されていたトドマツの枝葉から、空気をキレイにして安らぎを与えるエッセンスを抽出することに成功しました。釧路市の株式会社北都と連携し、森の整備に貢献しながら、森の恵みを活かす「クリアフォレスト」事業を展開しています。

抽出されるエッセンスは2つ。それは「天然樹木水」と「天然森林オイル」。ともに森林浴効果や、消臭効果があり、さらに天然森林オイルには大気汚染低減効果、抗酸化機能もあります。

エステーでは、この天然樹木水を使った電気を使わないエコ加湿器や芳香消臭剤、天然森林オイルを使った自動車用空気浄化剤などを開発し、全国で販売しています。

皆さんも北海道の森のチカラで空気をキレイにして、リラックスしてみませんか？



森林内からトドマツの枝葉を搬出



釧路市にある株式会社北都の工場で抽出



自動車用空気浄化剤
(クリアフォレスト クルマ)

おいしく飲んで道産間伐材の利用拡大に貢献！

皆さんも一度は飲んだことがある紙コップ式の自動販売機。今、その紙コップ式の自動販売機にも道産の間伐材が使われているのをご存じでしたか？

この事業を展開するのが、自動販売機市場大手の株式会社アペックス。道内で伐採された間伐材を日本製紙北海道工場旭川事業所で加工し、東京の紙コップメーカーが製品化。紙コップのデザインにもこだわり、「健康な森

のサイクル」と称してイラストを刷り込んで間伐の大切さをPRし、飲み終わった後の紙コップは自社が回収、その後はトイレトペーパーに再利用することで、森林資源をムダなく利用しています。

これからも道内はもとより、全国にこの道産間伐材を使った紙コップ式自動販売機を導入していくとのことですので、見かけたときは是非ともご利用ください！



道庁1階に設置された
自動販売機



イラストが描かれた紙コップ



リサイクルされた
トイレトペーパー



「植える、育てる」
「だけでなく」使う」活動

木育と地材地消
企業の取組

企業だからできることがあります 04

- 01 下草刈り(美幌町 年賀の森)
- 02 植林付カーボンオフセットカレンダー (卓上)
- 03 グリーンエコ年賀状

プリプレス・センター

(株)プリプレス・センターは、その会社案内冊子20ページのうち6ページを環境活動紹介に充てるなど、全ての事業活動において環境に配慮し、具体的な行動を伴った形で、「環境」と「経済」の両立に取り組んでいる企業です。

その1つにカーボンオフセットがあります。同社では「NPO法人コンベンション札幌ネットワーク」のレガシーカーボンオフセット事業「サミットの森」にてカーボンオフセットを実施。その実績には2種類あり、1つは同社の事業活動や社員の家庭分、輸送時排出分といった毎年度の製造過程で排出されたCO₂を計算し、自社負担100%で相殺分の木を植える活動です(2013年度植林分: 200t-CO₂ 美幌町0.644ha、カラマツ1,288本)。もう1つは、グリーンエコ年賀状やカーボンオフセットカレンダーなどのカーボンオフセット商品を購入して頂く消費者負担100%の活動です。同社の活動で特徴的なのは、名入れ年賀状は310枚、カレンダーは100冊でカラマツ1本などと、植林本数が商品に明示され、さらに植樹場所まではっきりしていることです(2013年度植林分: 552.69t-CO₂ 美幌町1.778ha、カラマツ3,556本)。



また、企業活動「グリーンエコ年賀状プロジェクト」として、社員が毎年美幌町の「年賀の森」で下草刈りなどを実施しています。これらのことを評価され、「平成24、25年度 美幌町善行賞」を受賞しています。

カーボンオフセットとは

自分の温室効果ガス排出量のうち、どうしても削減できない量の全部又は一部を他の場所での排出削減・吸収量でオフセット(理め合わせ)すること(出典:北海道環境生活部地球温暖化対策室HP)



2012年5月本社屋ビル移転に際し、美幌町森林認証カラマツ材により、オフィス家具、ルーバー（エントランスやエレベーターホール等の内壁）、デスク、会議用テーブル、フロアリング、書庫などを設計・製作しました。

同社の環境活動は、木を「植える、育てる」だけでなく、森林認証材を「使う」活動へと、持続可能な社会を目指すしくみが「形」になりました。



- 04 1Fエントランス
- 05 1F共有フリースペース
- 06 3Fミーティングルーム



株式会社プリプレス・センター

2004年にISO14001認証を取得（2007年より、環境マネジメントシステムをエコアクション21に変更）し、環境配慮経営へ舵を切った同社は、2008年に北海道洞爺湖サミットの公式ポスター製作に関わることで、本格的に環境印刷を推進することになります。同年にはFSC®のCOC認証を取得するほか、北海道グリーン購入ネットワークの設立にも関わっていきます。

現在は、国際的なビジネス展開や人材育成にも取り組むほか、会議・展示会の企画運営にも展開するなど、新たな事業ドメインへの進出を図っています。

代表の藤田靖氏は、前述の北海道グリーン購入ネットワークの代表幹事を務めるほか、一般社団法人北海道中小企業家同友会の全道共同求人委員会の委員長を務め、学生を対象に中小企業への魅力や理解を広げる活動も行っています。



北海道洞爺湖サミット公式ポスター

会社概要

- 住所
060-0062
札幌市中央区南2条西10丁目5-3
- お問い合わせ先
011-272-6670
- HPアドレス
<http://www.pripres.co.jp/>



すべては、ここからはじまりました

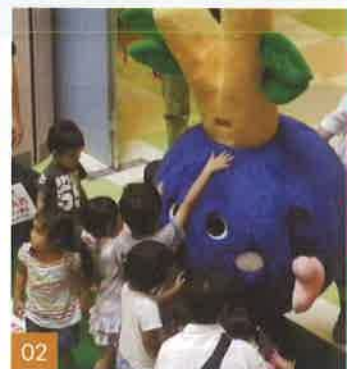
01



04



03



02

- 01 吹き抜ける広い空間で「木育ひろば」
- 02 北海道の森づくりを応援する「芽森(めもり)」も大人気
- 03 福祉のお仕事で来ていた「うっさん」も遊びに来てくれました
- 04 カートカン飲料

木育フェア in アリオ札幌

平成23年度にはじまり、3回目の開催となる「木育フェア in アリオ札幌」は、北海道と(株)セブンイレブン・ジャパン及び(株)イトーヨーカ堂との「包括連携協定」により実施しています。

今回も、アリオ札幌1階にある吹き抜ける空間ハーベストコートに、木の砂場、すべり台、釣り堀、輪投げなどの木製遊具で遊べる「木育ひろば」を設置して、親子で遊べる空間をつくりました。

また、木育ひろばの隣には「地材地消の木製品展示」など、北海道の木を紹介するコーナーを設置、屋外テントでは「ペレットストーブ 燃焼実演」も行いました。

イベント期間中が、ちょうどセブン&アイホールディングスよりカートカン飲料(間伐材で作られた紙製飲料容器に入った飲料)が発売された時期と重なったことから、カートカンを紹介するパネル展示など店舗と連動する形で、森林や木材の循環利用の大切さを伝えるよい機会となりました。

「木育フェア in アリオ札幌」の来場者数は、木育ひろばと各種展示コーナー合わせ、3日間で3,200名を超え、子どもから大人まで多くの方に楽しんでいただきました。



▲木育フェアinアリオ札幌 チラシ

- 日時: 平成25年
7月12日(金)~14日(日)
11:00~18:00
- 場所: イトーヨーカドー
アリオ札幌店
ハーベストコート
- 主催: イトーヨーカドー
アリオ札幌店
- 共催: 北海道



アリオ札幌

札幌・苗穂にある110を超えるファッション&グルメの専門店「アリオモール」と「イトーヨーカドーアリオ札幌店」からなるショッピングセンター。木育以外にも「授産製品フェア」や、各総合振興局と連携した催し物などを開催。

会社概要

- 住所 065-8518 札幌市東区北7条東9丁目2-20
- お問い合わせ先
011-712-1111 (イトーヨーカドーアリオ札幌店)
- HPアドレス <http://blog.itoyokado.co.jp/shop/233/>

小さな空間で、
伝える技術を磨く



- 01 「木育ひろば」は、おなじみ「きぼうのארל」と「スギックモック」です
- 02 朝一番からカホンづくりに参加している大人の姿
- 03 「おが粉アート」は、はがき大の板にカラーおが粉で絵を描きます
- 04 カホンでセッション

木育ひろば in マルヤマクラス

札幌円山にある商業施設マルヤマクラスの木育イベントは、平成24年に引き続き2回目の開催となります。

毎年2週にわたり開催している「丸山文化祭」のイベントのひとつとして、「木育ひろば」と木育マイスターの「木育教室」を実施。

今年の木育教室1日目は、大人にも大人気「小さなカホンづくり」です。出来る上るとさっそくプチリズムセッションする姿が見られました。

2日目の「おが粉アート」と「マイ箸づくり」は、大人も子どももたくさんみなさんに参加していただきました。

また、会場では木質ペレットを燃料とする「ペレットストーブ」の展示も行いました。実際に燃えている様子を見てもらいたいところでしたが、室内なので燃えている風の演出です。円山地区のみなさんに木の心地よさを感じていただけたらいいですね。

夏まつりだ 裏参道



直射日光のもとでの箸づくりはハード

平成25年7月7日(日)に「木育ひろば」が登場した場所は、丸山裏参道に面したとある場所。マルヤマクラスも参画する、丸山裏参道振興会が主催するこのお祭りは、今年で12回目の開催です。当日は、快晴の空のもと実施した、マイ箸づくりが長蛇の列となりました。



◀木育ひろば in マルヤマクラス チラシ

- 日時：平成25年10月26日(土)、27日(日) 10:00~16:00
- 場所：マルヤマクラス 2F
- 主催：マルヤマクラス、北海道



マルヤマクラス

ダイエー札幌円山店を中核とした、約80店舗で構成される札幌市円山のショッピングセンター。毎年10月~11月に、円山動物園のパネル展や、各種文化行事を店内で開催する「マルヤマ文化祭」を開催している。

会社概要

- 住所 064-0801 札幌市中央区南1条西27丁目1-1
- お問い合わせ先 011-642-7744 (マルヤマクラス マネジメントオフィス)
- HPアドレス <http://maruyama-class.com/>

木を使った オフィス空間づくり



- 01 多目的ホール ユビキタス協創広場U-cala
- 02 Café Standと北海道産の落葉松の屋台
- 03 ショールーム
- 04 事務所スペース

内田洋行北海道支店

内田洋行北海道支店は、2013年4月に内田洋行グループ会社4社の拠点を統合し、これまで商業店舗として活用されていたサツポロファクトリーの空間を、自社技術の空間構成システムである「スマートインフィル」を用いて、オフィス空間へとリノベーションしました。その空間には地域交流の場として「ユビキタス協創広場U-cala」も併設され、事業の発表会やイベント等、地域とのネットワークづくりの場として使用されています。

今回のリノベーションでは、省エネ・節電対応、BCP対策の導入はもちろんですが、床材に道南杉の無垢材のフローリング、シエルフヤ衝立、格子天井にはトドマツ、デスク天板にはトドマツ集成材と、内装や備品に地域材を使用しています。また、多目的ホール部分には、カラ松の屋台も置かれ、遊び心も忘れていません。

地域材利用というと、大規模な木造建築物や、特殊な方法を用いてでも木で作るということに執着し、経済活動としての視点を見失いがちであることに對して、ここでは、既存の部材を効果的にデザインすることで活用するにはどうすればよいかを考えさせてくれる意味で一見の価値がある施設です。

それにしても、この場所が元々「世界展開している玩具大型量販店」だったとは：



06

「わくわく楽しい木育フェア」

うますぎ▶

- 05 キューづくりを教える木育マスター中村さん
- 06 木育紙芝居の読み聞かせ
- 07 C4さん、清水さんとリズムセッション
- 08 小さなカホンづくり(ギロ付き)を教える木育マスター鈴木さん
- 09 芽森氏と戯れる内田洋行社員ご一行様
- 10 C4さんも参加
- 11 きぼうのプールづくりを教える木育マスター源さん

●主催：内田洋行北海道支店、木育マスター道南支部
●共催：北海道、北海道林業・木材産業対策協議会



05



09



08



07



10



11

「木育」の推進と地域材利用の普及PRを目的に、平成26年2月15日、16日「わくわく楽しい木育フェア」を、木製の内装であふれた、この事務所・ショールームの空間を活かし開催しました。

イベントでは、北海道の木のおもちゃを集めた「木育ひろば」のほか、木育マスターによる北海道の木を使った「小さなカホンづくり」や「ウッドシェイカーづくり」、プロミュージシャン「C4」による「カホン演奏会」、内田洋行社員による「木育紙芝居」の読み聞かせ(経験者という噂)などを実施しました。

ご来場者のカウントは、プレゼント「うますぎ」の残量で計算するハズだったのですが、大盛況で最後は無くなってしまいました…というわけで、「期間中は400名を超えるご来場をいただきました。」で締め。多くの方のご来場、本当にありがとうございました。

株式会社内田洋行

明治43年2月11日旧満州大連市に測量製図器械、事務用品の満鉄御用商翠苔号を創立。大正6年3月内田洋行に商号を統一。現在は、オフィス関連、教育関連、情報関連の3つの事業を中心にお客様の環境構築を手掛け、そのなかで、国産材の利用促進や木育活動などを通じた地域貢献にも取り組んでいる。

会社概要 (内田洋行北海道支店)

- 住所
060-0031
札幌市中央区北1条東4丁目1-1
- お問い合わせ先
011-214-8675
- HPアドレス
<http://www.uchida.co.jp/company/showroom/u-cala.html>



より多くの方に伝えるために 05

地材地消バスツアーは、森林から木材が出て、住宅になるまでの流れを一般の方にわかりやすく理解して頂く取組として、これまでも道内各地で行われてきました。近年は工務店や設計士など住宅を供給する専門の方の地材地消に対する認識を高めるために開催する事例も増えています。

地材地消 バスツアー

木育と地材地消
道庁等の取組



地材地消バスツアー in 夕張



株式会社テーオー小笠原夕張工場 地域材フローリング工場 夕張市道宮南清水沢歩団地 地域材木造建築物

石狩・空知・胆振管内の住宅施工業者・設計者と市町村行政担当者などを対象として、地域材を使用している道営住宅や工場見学（木質繊維断熱材、フローリング、木毛セメント板）のほか、北総研によるミニセミナーなどを実施しました。

あいにくの大雨にも見舞われましたが、バスを工場内に入れて全員乗り込むという荒技で困難を乗り切りました。その気合いがこれからの意気込みにつながれば幸いです。

- 日時：平成25年7月29日（月）
- 場所：苫小牧市、夕張市
- 主催：北海道林業・木材産業対策協議会

住宅を建築又はリフォームを検討している人を対象に、カラマツやトドマツを使用したモデル住宅やその製材をしている工場の見学をしました。

参加者アンケートでは普段見ることができない工場見学はやはり人気でした。また、後日関係工務店に「カラマツ住宅を建てたいのですが？」という問い合わせもあったそうです。おいしい食事だけではないバスツアーをこれからも続けていきたいと思えます。

- 日時：平成25年9月28日（土）
- 場所：清水町、帯広市、霧別町
- 主催：北海道林業・木材産業対策協議会



オムニス林産協同組合



丸十木材「道産材2×4」モデルハウス

地材地消 北海道の木の家 バス見学会

「地材地消」バスツアー in オホーツク



北方型住宅に関するセミナー



カラマツ人工林

オホーツク管内のバスツアーは、夕張と同じように施工業者・設計者が対象です。

北見市、網走市で参加者を乗せたバスは網走市内の完成住宅に向かいます。ここでは、北方建築総合研究所から講師を招いて「北方型住宅に関するセミナー」を実施し、施工者による完成住宅の施工についての説明がありました。昼食後、網走市内の人工林を見学し、斜里町でプレカット・金物工法の工場を見学。

私たちの生活環境を守る森や木材になるまでを見学することで、地域の環境と技術を活用した住宅づくりのヒントが得られたかと思えます。

- 日時：平成26年2月25日（火） ●場所：網走市、斜里町
- 主催：北海道林業・木材産業対策協議会、（一財）北海道建築指導センター